

# 氷ノ山山スキーーツア

2002 3/9-10

天候：晴れ



## メンバー

大塚賢一	46才
植田敏昭	54才
今岡俊郎	54才
木倉 博	39才
福迫順一	38才
田代恵子	37才



紺碧の空、大自然の彫刻家  
が作り出すシュカブラ、白い  
海にそそり立つブナの樹海に  
包まれていつしか何もかも忘  
れて大自然と同化してい  
く・・・ブナの大木と語りあ  
っていると、下界で身体中にま  
とわり付いたイヤなホコリが  
取り払われて、みなぎるパ  
ワーが全身に注がれていくよ  
うだ。



9日 快晴

5:32 - 3°

出雲から来られた植田、今岡さんと合流し、氷ノ山国際スキー場駐車場に到着。

6:22

完全装備変更を済まし出発。林道を歩き始めると真っ赤な御来光の光に注がれて山々が目ざめていく。

6:44 1°

林道を少し歩くと雪もついてきたので早速重いスキーをザックから降ろし引っ張りに変更する。



ゲレンデ登りはつらい

7:20 流れ尾根より入山  
ゲレンデに到着。雪もたっぷり  
で今日のゲレンデスキーも快適に遊べるだろう、しかしこの時間はまだリフトが動いていないのでそのまま中間リフトまで引っ張りでゲレンデ斜面を登って行く。

7:42

雪もクラストしてきたので

装備変更でアイゼンを装着する。福ちゃんはシールに変更でチャレンジだ。

8:09 1030 m 5°

最終リフト地点に到着。一昨日降った雪がパウダー状態で10cmは積もっている、これはすごいご褒美だと思いきや多少のラッセルもものともせずに喜び勇んで杉林の急斜面を進んでいく。

この時期は本来なら蘇武岳の縦走を先に行くのだがどうも雪少なしでダメのようなので、この3月の始めに来たのが正解であったようだ。

8:44



流れ尾根への取り付き

流れ尾根稜線の雪庇にたどり着いた。雪庇は相変わらず2mほどである。これを登り込まなければ稜線にたどり着けないところがこのルートの面白いところだ。植田さんや今岡さんも経験豊富な山スキーヤーなのですごく楽しんでいる。

9:04 装備変更スキー固定  
引っ張りもここまでで今から

ブッシュ帯に入っていくのでスキーザック固定である。しかしいつもならここからブーツが泥だらけになるのに雪が多いので楽々にこなせる。

それならもっと楽しもうと少しルートを外し、日の当たらない硬い50°位の斜面をピックストックを刺しながら四つん這いで登り始めた、これはこれで非常に楽しかった。

10:25 トラバース

流れ尾根トラバース急斜面到着。小休止を入れながら景色を堪能する。大粒の汗が真っ白い雪に溶け込んでいく。

再びスキー引っ張りで硬い斜面もアイゼンを食い込ませながら進んでいく。

11:24 1510m 氷ノ山山頂着

久々に素晴らしい景色で北西に大山がはっきりと見え、北東にはうっすらではあるが白山が確認できた。



流れ尾根トラバース

12:40

ラーメンタイムも済まし、ザックをデポして早速にスキー三昧を味わおうと広大な南斜面にカッ飛んでいくが、いかんせん一昨日降った雪が裏目に出て完全モナカと化しており思うように板が回らなくて全員四苦八苦である。



北壁へカッ飛ぶ

13:05

これはイカンと北斜面に切り替えてコシキ岩をトラバースで氷ノ山越えに向かうがこれまた同じで滑るに適さない。シールを付けて引き返すがコシキ岩直下が日陰で硬雪、そして急斜面であるのでここぞとばかりに谷へカッ飛ぶ。結局今日に滑りはこの一本が最高の滑りでした。植田さんと恵ちゃんは登り返しはつらいので高見の見物。

15:30

少々早いですが小屋で晩再会と決め込む。2階は畳もあり毛布もありで快適そのものである。先客の倉敷山の会の渡邊さん3名と盛り上がり楽しい宴会となる。



コシキ岩直下滑降の私



石野氏登場

17:05

何と、石野氏が登場してきた。これにはホントにびっくりしてしまった。戸倉のゲレンデをシールで登り、そこから稜線に出て延々9時間かけて来たと言っていた。すごいとしか言いようがない。出雲の植田氏らと同年代とあって色々と山話に花が咲いて最高の

夜を迎えたが、この夜はものすごい強風が吹き荒れていた。テントでなくてよかった。

10日 快晴

6:30 起床 外気温-6°

素晴らしい小屋であるのでアルコールに浸ってぐっすりと眠れた。朝食もゆっくりと済まし、いよいよ待望の滑降である。

8:15 ブナ林へ滑降

雪質は昨夜の強風と冷え込みで昨日の雪とは打って変わってほどよく締まっている。倉敷のメンバーは東尾根方面へ滑って行った。我々はブナの原生林への大滑降である。



ブナの巨木に囲まれて・・・

たかだか高低差は200mほどだが、みんなそれぞれに朝一番の奇声を発しながら大自然の雪世界に溶け込んでいく。白銀の世界からブナの巨木原生林に抱かれて滑り込む・・・これぞネイチャーランドである。今岡さん曰く、この光景は北海道では「ダイヤモンドワールド」というらしい。それほどに素晴らしいのである。

10:05 石野氏と別れる

2本滑り込んだのち、石野氏は三の丸経由で分水稜線の殿下道の下って行った。

我々は最後にもう一本滑ることに・・・高低差250mその少ない距離に凝縮された素晴らしい景色に感動する。

倉敷山の会のメンバーも東尾根からこちらに移動してほどよく堪能していた。

10:40 東尾根経由で下山

小屋への荷物を取りにいくが、そこにはいつ来たのか大勢の登山者でゴッタ返していた。

さぁ今度は満杯のザックを背負っての滑降になるから今までのようには滑れない、転倒したら起きあがるのに一苦労なのだ。

天気がピーカンなので11時を過ぎたあたりから昨日同様に雪が重くなり始めて次々にメンバーは悪戦苦闘で転倒者続出である。福ちゃんは

勢い余って木に激突し(´\_`)に敗者の勲章が痛々しい。

この東尾根は大変な痩せ尾根なので長板を操作するのは非常に難儀する。それでも出雲メンバーの植田、今岡両氏は私の後ろをピタッと付いてきているのには驚きであった。

11:50 東尾根休憩小屋

着

ここで昼食ラーメンタイムに腰を落ち着ける。

いつもならここから担ぎで杉林の急斜面を歩いて下りるのだが、今のシーズンはまだまだ雪が豊富に付いていておまけに日陰なので雪質もほどよく締まっているので、今を履いたまま横滑りと斜滑降を織り交ぜながら無事にスキー場まで滑降できた。

13:41 駐車場着

スキー場からはゲレンデ客を横目に林道へと雪のあるところまで滑り込んで行き、この2日間素晴らしい氷ノ山ツアーをファイナルにした。

PS.

植田さん達は、7年ぶりにやっと念願かなった氷ノ山山スキーに大喜びだった(大山の比じゃない)。

来シーズンはもう少し早い時期に来ようと思う・・・パウダーが狙えるかも？。



東尾根のヤセ尾根に四苦八苦